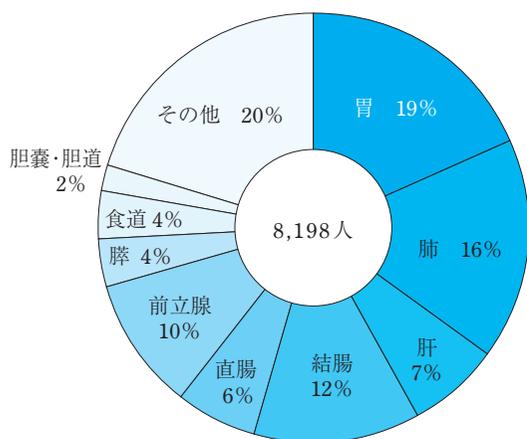
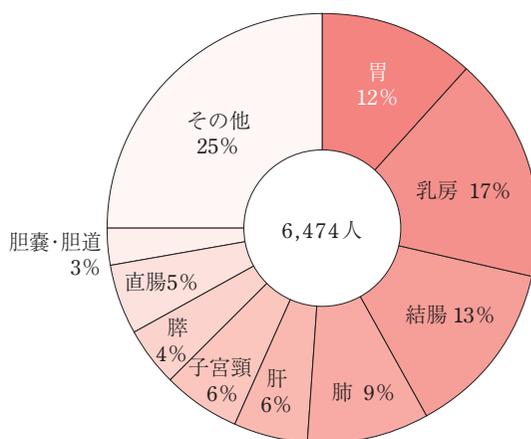


Ⅲ 全がん集計

主要部位別罹患割合〔男性〕

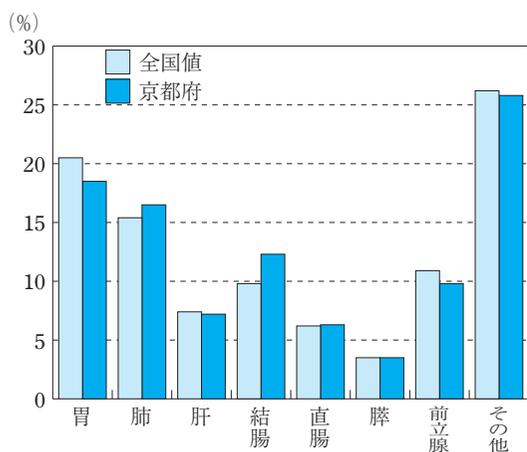


主要部位別罹患割合〔女性〕

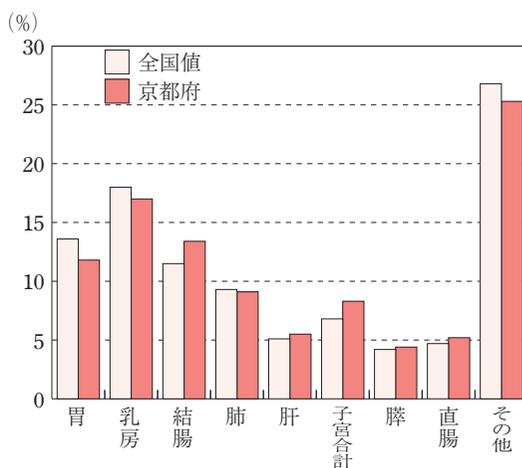


部位別には、男女それぞれ図に示す通りであった。これらのがんの死亡数の順位は、男性では、胃(1520)、肺(1352)、結腸(1012)、前立腺(805)、肝(588)、直腸(513)、食道(302)、膵(291)、胆嚢・胆道(165)の順であった。女性では、乳房(1100)、結腸(865)、胃(766)、肺(592)、子宮頸(381)、肝(356)、直腸(335)、膵(282)、胆嚢・胆道(187)の順であった。男女とも、順位、実数ともに例年と大きな変動はなかった。

主要部位別罹患割合全国値との比較〔男性〕

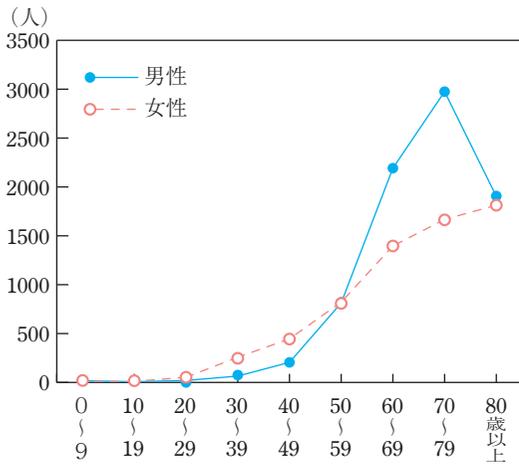


主要部位別罹患割合全国値との比較〔女性〕

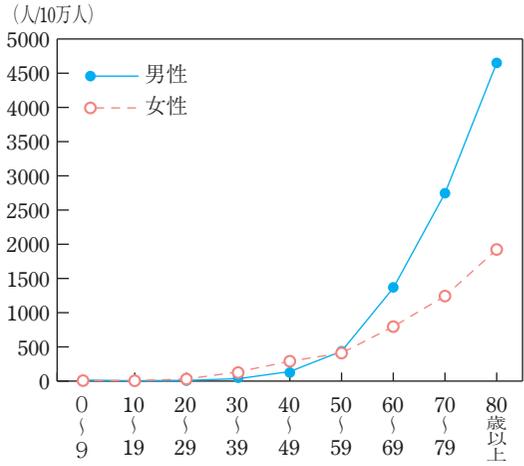


男性では、肺がん、結腸がん、直腸がん、女性では、結腸がん、肝がん、子宮がん、膵がん、直腸がんが全国値より多い傾向を示した。少ない傾向を示したのは、男女とも胃がん、男性では前立腺がん、女性では乳がんであった。今後、京都府データのDCO割合の減少に伴い、全国値との相違も小さくなると予想される。

年齢階級別罹患数

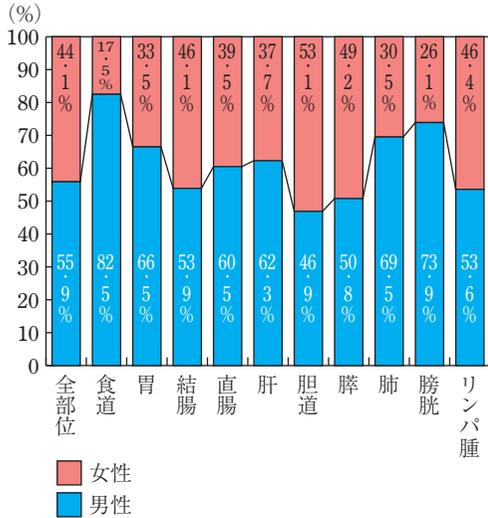


年齢階級別罹患率 (人口10万対)

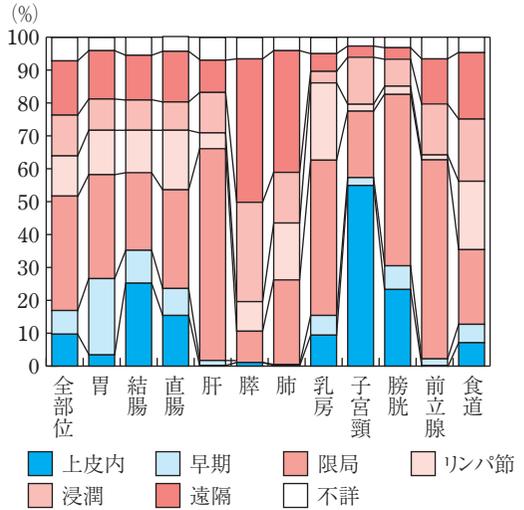


年齢階級別罹患数・罹患率ともに、20-59歳の年齢層では女性、それよりも高年齢層では男性の方が高かった。これは、女性が罹患しやすい乳がんや子宮がんが若年齢層に多いためと考えられる。

がん罹患の主要部位別男女比



主要部位別病巣のひろがりの状況



全般にがんは男性に多く、全部位では56%は男性であった。なかでも、食道、膀胱、肺などのがんが男性に多かった。これは、喫煙、飲酒などの男性に特有の生活習慣を反映していると考えられている。早期(上皮内、早期)に発見されている割合の多いがんは、子宮頸、結腸、膀胱、胃、直腸などのがんであり、進行(隣接浸潤、遠隔転移)して発見された割合の多いがんは、膵、肺などのがんであった。